

## 第4回

## 石井至の世界放浪記

## ネパールの混乱打開のために

今回は、木村三浩さんとのネパール珍道中について紹介したい。

今年三月某日から、ネパールのカトマンズに木村さんが行った。目的は壮大である。ネパールは二〇〇八年に王制が廃止されて以来、政治状況は混とんとしている。現在の与党はネパール共産党毛沢東派(いわゆるマオイスト)で議会の全議席数六〇一のうち二二〇議席を持つ。第二党が国民会議派と呼ばれる政党で一〇一議席。第三党はネパール共産党マルクス・レーニン主義派で一〇三議席を持つ。ネパールの政党間は見の対立が激しく、合意がなかなか得られない。ネパールは現在、憲法もなく議会も開催されていない。木村さんは独自の人脈でマオイストとのルートがあり、私は共産党マルクス・レーニン主義派とルートがあつたので、二人で協力して橋渡しをすればネパールの政治が機能し始めるのではないかと、ある意味、荒唐無稽な壮大な構想に基づいて訪問することになった。木村さんも私も初めてのネパール訪問だ。

しかし、この訪問は始めから躓

いた。不景気で経費削減の折り、それぞれ安く行ける方法で行き、カトマンズで現地集合ということにしていた。私はマイレージの無料航空券を使って香港まで行き、そこからドラゴン航空でカトマンズまで。木村さんは、タイ航空で羽田からバンコクに向かい、そこでカトマンズ行きに乗り換えるはずだった。

私は香港までたどり着き、ドラゴン航空の出発までの四時間を空港で待っていたところ、急に携帯が鳴った。木村さんからだった。「石井さん。申し訳ないのだけど、昨夜のバンコク便に乗り遅れちゃって、カトマンズに着くのが一日遅れになる。マオイストには伝えてあるから、迎えは空港まで来るはずだから。ではカトマンズで」ということだった。

タイ航空の羽田からのバンコク便は深夜発なのだが、レコンキスタ三月号への執筆・編集作業に没頭するあまりに乗り遅れたというのだ。しかし、木村さんの段取りよろしく、私がドラゴン航空で夜にカトマンズに着くと、マオイストの青年部幹部であるスレンダー・グルン氏が迎えに来てくれていた。スレンダーさんは日本に十年あまり滞在し、ボクサーとして米倉ジムに所属していたとい

う。世界チャンピオンにもなった人だ。なので、ネパールの若者の英雄だ。

## ネパールの選挙事情

翌朝、マルクス・レーニン主義派で元首相のマダブ・クマル・ネパールさんと会うことになっていた。私とは十年来の知り合いで、年に数回お目にかかる仲だ。木村さんも紹介すべく一緒に行くはずだったが、木村さんがカトマンズに着く飛行機はお昼頃だったので、やむなく一人でネパールさんの自宅を訪ねた。

政治状況について聞くと、「今、主要政党間で合意し、最高裁判所判事を選挙管理のための暫定首相にして、総選挙をすることになっている。選挙は早ければ六月、遅いと十一月だ」という。よくよく話を聞くと、六月から十一月の間どこかということではなく、六月か十一月で、七月から十月は天候不良のため選挙はできないという。雨が多い地域では道がぬかるんで選挙に行けない人がいたり、雪が多い地区では外に出られない状況になるおそれがあるそう。戦況について聞いたところ、「前回の選挙は楽勝ムードだった。しかし、油断しているうちに、マオイストにお金をばらまかれ負けて

しまった。今回は油断せずに最後まで選挙運動をしつかりとやりたい。マオイストは人気が低落しているから、今回は我々が勝利するだろう」と鼻息が荒かった。

ネパールさん訪問後、カトマンズ空港まで木村さんのお出迎えに行った。木村さんは元氣そのもの。ただ、到着が一日遅れになったため、首相を含むマオイスト幹部との各種面談の日程が仕切り直しになったとスレンダーさんはぶつぶつ言っていた。

宿泊先のシャングリラ・ホテル(あのシャングリラグループとは関係のない地元のホテル)に戻り、夕食を食べに行くことになったが、スレンダーさんのお勧めはなんと北朝鮮料理だった。ネパールは北朝鮮と国交があり大使館がカトマンズに存在する。その北朝鮮レストランに行ったときも大使館員もいた。入ると、もうそこはピョンヤンのレストランと変わらない。料理も十分においしかった。後日、カトマンズの日本レストランにも連れていってもらったが、極端に野菜が少なく、また、うどんに入っていた茹でエビは、食べた瞬間に思わず吐き出したくなるような変な味だった。そう考えるとその北朝鮮レストランは野菜も豊富にとれ、十分に美味だった。次回は、マオイストのリーダーとの会見、ネパール革命戦士との対面などを紹介したい。まだまだ珍道中は続く。